

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 平尾

山名	蘇武岳		山行名	例会
ルート	万場登山口～分岐～蘇武岳～分岐～一ツ山～二ツ山～三ツ山～四ツ山～大杉山～登山口			
山行日	2024年11月13日(水)	天候	晴れ	
参加者	CL 平尾、SL 山本、大西、岡本、蒲田、小泉、高橋、高山、米田/9名			

ルート概略図 	コースタイム				
	地名	時:分	地名	時:分	
京田辺	発	5:35	一ツ山	着	12:58
				発	13:00
万場スキー場	着	8:40	二ツ山	着	13:08
	発	9:02		発	13:09
登山口	着	10:24	三ツ山	着	13:16
	発	10:30		発	13:16
分岐	着	11:10	四ツ山	着	13:22
	発	11:11		発	13:24
蘇武岳	着	11:33	大杉山	着	13:30
	発	12:31		発	13:41
分岐	着	12:50	万場スキー場	着	15:14
	発	12:50			

但馬の蘇武岳(関西100名山)は、神鍋高原の西に位置し地元日高町出身の植村直己が初めて登った山で「単独行」の加藤文太郎も訪れている。万場の天神社近くの駐車場のトイレは使用禁止だったので万場スキー場まで行く。ゲレンデを右にみて舗装路を登山口にすすむ。夜中にわずかに降った雨で最初はぬかるみが続く。左の谷に入り「口の滝」、続いて「中の滝」を見て右手に登ると分岐にでる。左手の巨樹のあるコースに行く。カツラの落葉の甘い香りがすると雌雄2本のカツラの巨木「夫婦カツラ」の間を通る。途中カツラやトチノキの巨木が見られた。ロープのある急登をブナの落葉を踏んで進むと名色登山口からの林道と合流。その先から尾根筋に行く。背の高い若いブナの群生が白い肌で真っすぐに天へ伸び、足元の茶色の落葉との対比がやさしい雰囲気をかもしだしていた。足元にはイワカガミかイワウチワが一面に生えていて春の開花期も楽しみだ。大杉山との分岐を左へ蘇武岳へ向かう。所々でカエデが紅葉して目を楽しませてくれた。ゆるやかなブナ林の間を抜けていくと20分ほどで前方に蘇武岳山頂が見えた。直登で山頂へ行く道を右に見て迂回路で南から行く、11時30分過ぎ山頂に着く。360度の展望で但馬の山々、西に氷ノ山が見えた。北には日本海が見えるはずだが少し霞んでよくわからなかった。少し風があり寒いので西側斜面で昼食とする。休憩後下山、分岐まで戻り大杉山方面へ向かう。ブナ林の中を一ツ山(金山)、二ツ山、三ツ山、四ツ山と小ピークを登降する。黄葉したブナが何本か残っており陽ざしを浴びて輝いていた。13時30分大杉山につく。北側眼下に万場高原ゲレンデが見えた。ここから登山口へは東へ尾根筋をはずさないように下る。9合目までは急坂とガイドブックにはあったが、それ以降もかなり急な下りが多かった。ブナの落葉が積もる斜面を滑らないよう、転ばぬよう慎重に下りる。4合目の先で尾根が左に曲がっている所は要注意。落ち葉で踏み跡もわからず道はほとんど不明瞭。赤いテープと合目の小さな立て札が頼り。15時過ぎ計画より30分ほど早く無事スキー場へ戻った。天候にも恵まれ自然豊かな但馬の山を味わえた充実した山行となった。

YAMAP : 9.9km、上981m/下979m、6時間12分

ヒヤリハット なし

岡本

関西百名山でもあり、加藤文太郎と植村直己が愛した山として知られる蘇武岳…

秋のとても気持ちのいいお天気での山行となりました。

色とりどりの落ち葉に埋め尽くされたブナ林、色々な種類の巨樹やキノコ、登りごたえのある登山道、そして山頂からの 360 度の展望はとても綺麗で(もう少し晴れていれば白山も見えたのになぁ…)大満足な一日でした。ご一緒して下さいました皆様ありがとうございました。

高山

ようやく秋らしく紅葉の山を見ることができました。標高が高くなるにつれて落葉も進み、色々な形や色の葉っぱを楽しみながらの上りでした。桂の 2 本の巨木 (雌雄の木と命名されていました) の辺りでは、甘い香りに満たされカフェの気分♪

頂上では、あいにく霞んで日本海がはっきり見えなかったものの、海に浮かぶ船を確認して、歓声があがりました。下りは 4 つの山を上って下っての下山。たくさんの落ち葉で道も隠れ、しかも結構な急坂。わーきゃー言いながらの、でも、楽しい下山でした。もう一度登ってみたい山でした。長距離を運転してくださった Y さん・H さん遠いところまで連れて行ってくださりありがとうございました。



大カツラ



大トチノキ



一ツ山の急登



ブナ黄葉



蘇武岳 山頂



大杉山 山頂